

三二災害支援講座

災害時に備えるべき水の量は？

一般的な目安として水分補給や調理に使う「飲料水」は1人あたり3L/日とされています。しかし、災害時は飲料水だけでなく、トイレ(使用可能な場合)や衛生対策などに使う「生活用水」も必要になるため、水を備蓄する際は9Lよりも多く用意しなければなりません。

家族構成にもよりますが、最低でも**3日分、1人あたり30~60L**の生活用水を用意することが望ましいとされています。



災害対策としておすすめの水の備蓄方法

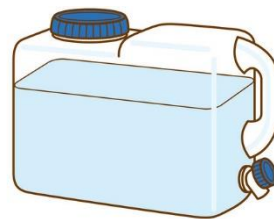
ペットボトル

賞味期限が10年以上の水もあります。賞味期限を定期的に確認し買い換えが必要ですが、賞味期限切れになっても、生活用水として使用することができます。災害時に備えて分散して保管したり、緊急時持ち出しができるよう、500mlサイズも準備しておきましょう。



防災用タンク

大容量の水を備蓄できる点がメリットです。防災用に特化しているためキャスターやコックがついているタイプもあります。衛生面の問題もあり、飲料水でなく生活用水としての利用となります。



お風呂の浴槽に溜める

100~200L程の生活用水を備蓄できます。浴槽のフタを閉めて保存します。毎日浴槽に水を溜めておくことが難しい場合は、台風接近や余震が続いている時などの災害リスクが高い間だけでも水を溜めることをお勧めします。



ウォーターサーバー

定期的に自宅に水が届くため、継続的な備蓄管理ができます。1容器の容量が多いため安定的に飲料水を確保できます。

